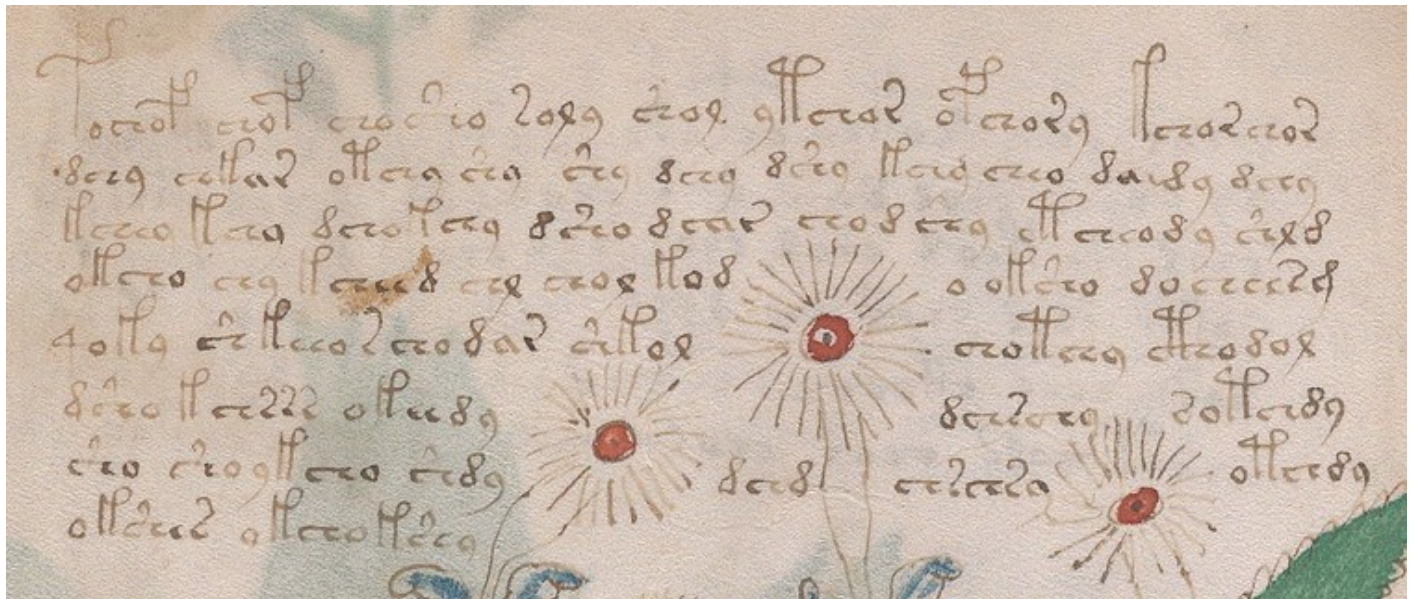


船を作り出立する様子です。移住開始でしょうか。タンポポへの喩です。



gdaaadag aadag aadabada kadaumb badaum bfaadar dapaadarb qaadar aadar  
グダアアダグ(タンポポ)の飛ばした愛らしい綿毛は家の側や新しい農地に多く置き、  
少しの農地にも置く。(枕詞の一行)

saab aaqar dafaab bab bab saab sbab qaab aatda saishb saab  
色々な人が活発な土地で、長期間次々と船を作った。色々な人が集まる為船は少なく、  
少し追加した。監視国は色々な人だった。

qaatb qaab saadaqaab sbada staar aadasaab dafaatdasb baums  
小さくない人も小さい人も色々自立的に協力した。星が幾らか出入りするだけ  
(数日間)で、長期間ではなく完成し、自然に集まった。

daqaada aab qaatts aaum aadaum qdas da daqbada sdaaattkaz  
暗闇に小さく皆が小さく集まり、それぞれの自分の家を少し出て、  
小さな自立の約束を最後の支えとして加えられた。

nadaqb baqttdak aadasar baqdaum aadafaab fadasdaum  
支配せずに隠れて固く集まり、放置された土地の家に隠れ、  
幾らか長期の遠い出入りの家だった。

sbada qaakrk daqttsb saakaaab r dafaasb  
まとまった約束で小さな船の周りを後ろにして、  
自立で集まった国には感謝が全てで、周りはいつからか国だった。

bada badabqaada basb saas aakaaarb dafaasb  
次々と約束ができ、古い他のものは隅にやられた。  
集まりが定まり次々と大船に人が乗り何時からか国ができた。

daqbatk bqaada qbab  
独立歩行者は後からの他の小さな船だった。